

## 陸上競技の場内アナウンスの言葉

清水泰生

スポーツ社会学、言語学等のスポーツの言説分析で研究対象になっているのは、スポーツ実況中継、新聞の分析である。本発表では、研究対象にほとんど対象になっていない場内アナウンス（競技の対象を陸上競技にする）の言葉に焦点を当て、そこで使われている言葉の紹介、分析、考察等を行いたい。

紹介及び分析・考察方法は、日本陸連から出ている場内アナウンスに関する資料、および、全国アナウンス講習会の資料等を踏まえながら、実際のアナウンスの録画、録音したものをもとに考察をした。なお、論者も日本陸連B級公認審判員のライセンスを持ち近畿マスターズ陸上選手権大会などの場内アナウンスを行い、世界陸上大阪大会日本語場内アナウンスの経歴の方々と一緒に場内アナウンスの仕事をしている。そのことで得たことも踏まえて考察したい。

調査、考察等によって、次のことが言える。

一般人が予想する以上に場内アナウンスに関する規則が多い。その中でも、興味深いものは、一般生活の言い方と異なるところである。例えば、数字の0をゼロと言わずにレイと言ったり7をシチとは言わずナナといったりすること等である。アナウンサーの伝達が公式になるので、選手、観衆等に聞き違いをなくするためであるが、アナウンサーの経験の少ない人は、日常で自分が使っている使い方をしてしまいがちなのである。本発表でこのような言葉とアナウンサーの誤用について指摘したい。

なお、上記に以外に次のことも言及したい。

陸上競技は、他のスポーツと違って、一つの時に何箇所も競技が進行しており、また、競技の結果、選手紹介、グランドコンディション、トラックレースの実況など、アナウンサーはいろいろなことをアナウンスしなければならない。それらのアナウンスの仕方に原則・決まりがある。本発表でそれらについて紹介しながら、言語学的特徴をみていきたい。そして、原則があまりないと思われるレース実況のアナウンスについて、実際のデータ元を元に、どういう言葉の使用があるのか、また、テレビの実況中継の言葉の使用との違いは何かについて考察を試みたい。